

II 千葉キャンパス

1 年間の諸行事・諸活動

2006(平成18)年度 学年暦 総合福祉(社会)学部〔前学期〕

4月		5月		6月		7月		8月		9月	
1 土		1 月		1 木	実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	1 土	七夕祭り	1 火	前学期集中授業	1 金	
2 日	第42回入学式 全教員会	2 火		2 金		2 日		2 水		2 土	
3 月	教務オリエンテーション 1年次英語クラス分け試験	3 水	祝日(憲法記念日)	3 土		3 月		3 木		3 日	
4 火	履修相談 新入生セミナー(2・3年次生実習生健康診断)	4 木	祝日(国民の休日)	4 日		4 火		4 金	追試験日程発表 図書館夜間開館終了	4 月	
5 水	4年次生就職健康診断	5 金	祝日(こどもの日)	5 月	保育実習Ⅱ	5 水		5 土		5 火	前学期成績発表
6 木	学生厚生オリエンテーション1年次生(社会福祉・編入生)	6 土		6 火		6 木		6 日		6 水	
7 金	学生厚生オリエンテーション1年次生(心理・社会)	7 日		7 水		7 金	孟蘭盆会(3・4時限休講)	7 月	追試験期間	7 木	
8 土		8 月		8 木		8 土		8 火		8 金	再試験締切
9 日		9 火		9 金		9 日		9 水		9 土	
10 月	前学期授業開始 図書館夜間開館開始	10 水		10 土		10 月		10 木		10 日	
11 火	日本学生支援機構賞与奨学金説明会	11 木	降誕会(3・4時限休講)	11 日	オープンキャンパス①	11 火		11 金		11 月	再試験日程発表
12 水		12 金		12 月		12 水		12 土	天津大学夏季語学研修(9/10迄)	12 火	
13 木	前期履修登録受付開始	13 土		13 火		13 木		13 日		13 水	再試験期間
14 金		14 日		14 水		14 金		14 月		14 木	
15 土		15 月		15 木		15 土		15 火		15 金	
16 日		16 火		16 金		16 日		16 水		16 土	
17 月		17 水		17 土		17 月	祝日(海の日)	17 木		17 日	
18 火		18 木		18 日		18 火		18 金		18 月	祝日(敬老の日)
19 水		19 金	卒論・論演・卒リポ 第1次題目届提出締切	19 月		19 水	前学期定期試験	19 土		19 火	後学期授業開始 図書館夜間開館開始
20 木	履修登録締切	20 土		20 火		20 木		20 日		20 水	後期履修登録受付開始
21 金		21 日		21 水		21 金		21 月		21 木	4年次生:教務オリエンテーション 卒業条件確認
22 土		22 月	教育実習Ⅰ	22 木		22 土		22 火		22 金	
23 日	創立記念日	23 火	献血実施	23 金		23 日	オープンキャンパス②	23 水		23 土	祝日(秋分の日)
24 月		24 水		24 土		24 月		24 木		24 日	オープンキャンパス④
25 火		25 木		25 日		25 火		25 金		25 月	
26 水	履修相談	26 金		26 月		26 水		26 土		26 火	
27 木		27 土	第3回スポーツ大会(休講)	27 火		27 木		27 日	オープンキャンパス③	27 水	
28 金		28 日		28 水		28 金	前学期集中授業 ブラジル研修(9・10迄)	28 月	米国英語研修(9/15迄)	28 木	
29 土	祝日(みどりの日)	29 月	教育実習Ⅱ	29 木		29 土		29 火		29 金	
30 日		30 火		30 金		30 日		30 水		30 土	履修登録締切
31 水		31 水		31 水		31 月		31 木		31 日	

2006(平成18)年度 学年暦 総合福祉(社会)学部〔後学期〕

10月		11月		12月		1月		2月		3月	
1 日		1 水		1 金	成道会(3・4時限休講)	1 月	祝日(元日)	1 木	後学期集中授業	1 木	リーダーズキャンプ
2 月		2 木	龍澤祭準備のため午後休講	2 土		2 火		2 金	図書館夜間開館終了	2 金	ブリストル大学春季語学研修(3/23迄)
3 火		3 金	祝日(文化の日) 龍澤祭 オープンキャンパス⑤	3 日		3 水		3 土	入学試験 A方式	3 土	
4 水		4 土	オープンキャンパス⑥	4 月		4 木		4 日		4 日	
5 木	履修相談	5 日	龍澤祭後片付け	5 火		5 金		5 月		5 月	
6 金		6 月		6 水		6 土		6 火	追試験日程発表	6 火	
7 土		7 火		7 木	サイレントナイトパーティー	7 日		7 水		7 水	
8 日		8 水		8 金		8 月	祝日(成人の日)	8 木	追試験期間	8 木	
9 月	祝日(体育の日)	9 木		9 土		9 火	新年授業開始 図書館夜間開館開始	9 金	淑徳大学ジョブフェア	9 金	
10 火		10 金		10 日		10 水		10 土		10 土	
11 水		11 土		11 月	卒論・論演・卒リポ受付開始	11 木		11 日	祝日(建国記念の日)	11 日	
12 木		12 日	推薦入試	12 火		12 金		12 月	振替休日	12 月	
13 金		13 月		13 水		13 土		13 火		13 火	
14 土		14 火		14 木		14 日		14 水		14 水	
15 日		15 水		15 金	卒論・論演・卒リポ提出締切	15 月		15 木		15 木	第39回卒業式 卒業記念パーティー
16 月	障害児教育実習	16 木		16 土		16 火		16 金	後学期授業終了	16 金	
17 火		17 金		17 日	オープンキャンパス⑧	17 水		17 土		17 土	
18 水		18 土		18 月		18 木	後学期定期試験	18 日		18 日	
19 木		19 日		19 火		19 金	大学入試センター試験準備 ※後学期定期試験(午前のみ)	19 月	後学期成績発表	19 月	
20 金	卒論・論演・卒リポ第2次題目届 提出締切	20 月		20 水		20 土	大学入試センター試験	20 火		20 火	
21 土		21 火	献血実施	21 木		21 日		21 水		21 水	祝日(春分の日)
22 日		22 水		22 金	年内授業終了 図書館夜間開館終了	22 月	後学期定期試験	22 木	再試験願書締切	22 木	
23 月		23 木	祝日(勤労感謝の日)	23 土	祝日(天皇誕生日)	23 火		23 金		23 金	
24 火		24 金		24 日		24 水		24 土	再試験日程発表	24 土	
25 水		25 土		25 月		25 木		25 日		25 日	
26 木		26 日	オープンキャンパス⑦	26 火		26 金		26 月	再試験期間	26 月	
27 金		27 月		27 水		27 土		27 火		27 火	
28 土		28 火		28 木		28 日		28 水		28 水	
29 日		29 水		29 金		29 月	後学期集中授業 卒論口述諮問	29 月		29 月	
30 月		30 木		30 土		30 火		30 火		30 金	新2年次生以上資料配布 新2年次生英語クラス分け試験
31 火		31 日		31 日		31 水		31 水		31 土	

2006(平成18)年度 学年暦 大学院総合福祉(社会学)研究科〔前学期〕

4月		5月		6月		7月		8月		9月	
1	土	1	月	1	木	1	土	1	火	1	金
2	日	2	火	2	金	2	日	2	水	2	土
3	月	3	水	3	土	3	月	3	木	3	日
4	火	4	木	4	日	4	火	4	金	4	月
5	水	5	金	5	月	5	水	5	土	5	火
6	木	6	土	6	火	6	木	6	日	6	水
7	金	7	日	7	水	7	金	7	月	7	木
8	土	8	月	8	木	8	土	8	火	8	金
9	日	9	火	9	金	9	日	9	水	9	土
10	月	10	水	10	土	10	月	10	木	10	日
11	火	11	木	11	日	11	火	11	金	11	月
12	水	12	金	12	月	12	水	12	土	12	火
13	木	13	土	13	火	13	木	13	日	13	水
14	金	14	日	14	水	14	金	14	月	14	木
15	土	15	月	15	木	15	土	15	火	15	金
16	日	16	火	16	金	16	日	16	水	16	土
17	月	17	水	17	土	17	月	17	木	17	日
18	火	18	木	18	日	18	火	18	金	18	月
19	水	19	金	19	月	19	水	19	土	19	火
20	木	20	土	20	火	20	木	20	日	20	水
21	金	21	日	21	水	21	金	21	月	21	木
22	土	22	月	22	木	22	土	22	火	22	金
23	日	23	火	23	金	23	日	23	水	23	土
24	月	24	水	24	土	24	月	24	木	24	日
25	火	25	木	25	日	25	火	25	金	25	月
26	水	26	金	26	月	26	水	26	土	26	火
27	木	27	土	27	火	27	木	27	日	27	水
28	金	28	日	28	水	28	金	28	月	28	木
29	土	29	月	29	木	29	土	29	火	29	金
30	日	30	火	30	金	30	日	30	水	30	土
31	水	31	水	31	水	31	水	31	水	31	水

2006(平成18)年度 学年暦 大学院総合福祉(社会学)研究科〔後学期〕

10月		11月		12月		1月		2月		3月				
1	日	後学期授業開始	1	水		1	金	成道会(3、4時限休講)	1	月	祝日(元日)	1	木	
2	月		2	木	龍澤祭準備(午後休講)	2	土		2	火		2	金	学部入試のため休講 図書館夜間開館終了
3	火		3	金	祝日(文化の日) 龍澤祭(期間中休講)	3	日		3	水		3	土	
4	水		4	土		4	月		4	木		4	日	
5	木		5	日	龍澤祭後片付け	5	火		5	金		5	月	
6	金	履修登録締切	6	月		6	水		6	土		6	火	
7	土		7	火		7	木		7	日		7	水	
8	日	第1回入学試験 前期課程・修士課程	8	水		8	金		8	月	祝日(成人の日)	8	木	
9	月	祝日(体育の日)	9	木		9	土		9	火	授業開始 修士論文提出受付開始 図書館夜間開館開始	9	金	
10	火		10	金		10	日		10	水		10	土	第2回入学試験 前期課程・修士課程 入学試験 後期課程
11	水	社会学専攻 前期課程(2年次生)修士論文発表会	11	土		11	月		11	木		11	日	祝日(建国記念の日)
12	木		12	日		12	火		12	金		12	月	振替休日
13	金		13	月		13	水		13	土		13	火	補講・集中講義終了 社会学専攻 修士論文口述試験期間
14	土		14	火		14	木		14	日		14	水	社会学専攻 修士論文口述試験
15	日		15	水		15	金		15	月		15	木	第17回学位記授与式
16	月	履修確認期間	16	木		16	土		16	火		16	金	心理学専攻 修士論文口述試験
17	火		17	金		17	日		17	水		17	土	
18	水		18	土		18	月		18	木		18	日	
19	木		19	日		19	火		19	金	大学入試センター試験準備(午後休講)	19	月	社会学専攻 修士論文発表会(専攻会議) 心理学専攻 修士論文発表会・中間発表会(専攻会議)
20	金		20	月	心理学・社会学専攻 修士論文題目変更届受付	20	水		20	土	大学入試センター試験(休講)	20	火	社会学専攻 修士論文中間報告会
21	土		21	火	献血実施	21	木		21	日		21	水	社会学専攻 研究中間発表会
22	日		22	水		22	金	年内授業終了 図書館夜間開館終了	22	月		22	木	
23	月		23	木	祝日(勤労感謝の日)	23	土	祝日(天皇誕生日)	23	火	後学期授業終了	23	金	
24	火		24	金	心理学・社会学専攻 修士論文題目変更届締切	24	日		24	水	補講・集中講義開始	24	土	
25	水		25	土		25	月		25	木		25	日	
26	木		26	日		26	火		26	金	修士論文提出締切	26	月	
27	金		27	月		27	水		27	土		27	火	
28	土		28	火		28	木		28	日		28	水	
29	日		29	水		29	金		29	月		29	木	
30	月	履修種名簿配布	30	木		30	土		30	火		30	金	
31	火		31	日		31	日		31	水		31	土	

2 教育事業

・「実践心理学科」「人間社会学科」への学科名称変更

本学部は福祉社会の構築を目指し、平成 17 年度に社会学部から総合福祉学部へと学部名称の変更を行い、社会福祉を中心とした特色ある教育課程の編成に着手した。本年度は、人材育成方針および教育課程の再編成を踏まえて、心理学科を実践心理学科へ、社会学科を人間社会学科へと名称変更を行った。これにより、社会福祉学科、実践心理学科、人間社会学科の三学科となった。

なお、人材養成の目的を明確にするために、平成 19 年度からの新しいカリキュラムを検討していくかで、コースについての名称、考え方の検討を引き続き行っている。

・新カリキュラムの検討（平成 19 年度より）

カリキュラムの検討においては、従来の学科で検討して教授会でまとめるという方式だけでなく、学部横断的に教員の意見を聞く機会を設け、検討していった。特にコース制を示すことで、入り口から出口までが見えやすいカリキュラムにすることを念頭に置き、学生にとってわかりやすい体系を考えたことが特徴としてあげられる。

・卒業式表彰者

1. 総代

社会学科	下野 美穂	社会福祉学科	富澤 正美
心理学科	新井 佐和子	編入生	稲付 恵実

2. 浄土門主賞

社会学科	新井 千晶	社会福祉学科	永島 彩子
心理学科	歌 沙央里	編入生	宮内 恵梨

3. 長谷川研究奨励賞

社会学科	星野 光子	社会福祉学科	上井 達矢
心理学科	松本 良恵		

4. 全国保育士養成協議会会長賞

社会福祉学科 村島 沙織

5. 日本社会福祉士養成校協会会長賞

社会福祉学科 平山 大

6. 特別賞

社会福祉学科 鬼原 明希 社会福祉学科 中島 達哉

・資格取得等状況

1. 国家資格の取得状況

(人)

	16 年度	17 年度	18 年度	備考
1. 社会福祉士試験合格者	101	71	82	
2. 精神保健福祉士試験合格者	11	9	8	
3. 保育士資格登録者	46	70	75	

2. 資格取得支援講座等実施状況

(人)

講座名	受講者	受験者	合格者	合格率%	備考
1. ホームヘルパー2級資格取得講座	123	123	121	98.4	
2. 秘書検定準1・2級受検講座	20	20	17	85.0	
3. 保育士養成講座	2	不明	不明	—	
4. 資格取得パソコン講座	113	113	101	89.4	マイクロソフト・スペシャリスト
5. 社会福祉士試験対策講座	188	※241	82	34.0	

※講座未受講者を含む

・卒業生等の進路状況

1. 総合福祉学部

平成18年度における卒業生数718名、このうち就職希望者数は575名、就職内定者数は555名であり就職率は96.5%と過去最高の就職率となった。一方、就職内定者以外では大学院進学13名、その他の進学14名、卒業後も就職活動継続が20名、次年度公務員・大学院など再受験のための浪人は27名、就職意思無し・進路不明が89名であった。

総合福祉(社会)学部卒業生の進路状況 平成18年度(19年3月卒業)

(人)

項目 / 学科	社会福祉学科		心理学科		社会学科		学部計		
		増減		増減		増減		増減	
①卒業生	404	△31	169	8	145	△5	718	△28	
②就職希望者	338	△27	119	15	118	△8	575	△20	
就職希望比率②/①%	83.7%	△0.2%	70.4%	5.8%	81.4%	△2.6%	80.1%	0.3%	
内 訳	③就職内定者	332	△18	113	11	110	△9	555	△16
	(③/①)%	82.2%	1.7%	66.9%	3.5%	75.9%	△3.4%	77.3%	0.8%
	(③/②)%	98.2%	2.3%	95.0%	△3.1%	93.2%	△1.2%	96.5%	0.5%
	④就職活動継続者	6	△15	6	1	8	△1	20	△15
⑤就職を希望しない	24	6	19	△7	11	2	54	1	
内 訳	大学院進学	2	1	9	△1	2	1	13	1
	その他の進学	6	△2	6	△1	2	△3	14	△6
	進学再受験	1	△2	2	△4	1	0	4	△6
	その他	15	9	2	△1	6	4	23	12
⑥就職の意思無し	42	6	19	△7	8	△2	69	△3	
⑦不明	0	△16	12	7	8	3	20	△6	

2. 総合福祉研究科

平成 18 年度修了の大学院生は 30 名、うち就職決定者（正職）は 11 名（内訳：企業 4 名・福祉医療関連 6 名・教員 1 名）、一時的な仕事に就いた者は 10 名、進学は 3 名、その他 6 名であった。

3. 教員・公務員試験合格者数 総合福祉(社会)学部 (人)

	16 年度	17 年度	18 年度	備考
1. 教員採用試験	35 (26)	33 (17)	30 (14)	臨時採用含む・()既卒
2. 公務員試験	23	20	21	

4. 卒業生の就職先

公務員・教員

千葉県内養護学校（市立市川養護学校、県立夷隅養護学校、県立印旛養護学校、県立柏養護学校、県立袖ヶ浦養護学校、県立八日市場養護学校）、都立葛飾養護学校、都立八王子東養護学校、都立南花畑養護学校、筑波大付属聾学校、千葉市きこえの教室、千葉県立松戸南高等学校、警視庁、千葉県警察、船橋市学童保育、所沢市学童保育、袖ヶ浦市行政職、筑西市行政職、成田市一般行政職、四街道市福祉職、品川区行政職、少年補導専門員公務員、葛飾区図書館司書職、常陸宮事務所、千葉県銚子児童相談所、市原市保育職、君津市保育職、千葉市保育職、船橋市保育職、葛飾区保育職、世田谷区保育職、練馬区保育職、甲府市保育職、四日市市保育職

社会福祉分野

■保健医療機関

(医)木下会、(医)千葉県勤労者医療協会、(医)芳葉会、(医)筑波記念会筑波記念病院、(医)平和会、(医)鉄蕉会、(医)博道会、(医)板橋中央総合病院グループ、(医)心和会、(医)寿英会、(医)友愛会、(医)若葉会、(医)博美会、(医)桜水会、(医)光会、(独)国立病院機構下志津病院、(医)春日部中央総合病院、(医)春日部厚生病院、埼玉医科大学付属病院、戸田中央医科グループ、帝京大学ちば総合医療センター

■成人福祉施設

(福)茶の花福祉会、(福)太陽福祉協会、(福)佑啓会降る里学舎、(福)あしたば会、(福)いたるセンター、(福)宝寿会、(福)あすなる会、(福)湘南の風もやい、(福)三篠会、(福)宝樹太陽の丘ホーム、(福)パーソナルアシスタンス、特別養護老人ホーム翔裕会、千葉中央障害者相談センター、いすみ学園、まほろばの里つつじ園、横浜市保土ヶ谷区生活センター、

■老人福祉施設

(福)東京福祉会、(福)若葉会、(福)菜の花会、(福)清規会、(福)淑徳福祉会、(福)市川会、(福)江寿会、(福)健やか福祉会、(福)宝樹、(福)双樹会、(福)泚山会、(福)協和会、(福)日新ロイヤル証、(福)旭悠会、(福)賛育会、(福)小茂根の里、(福)清和会、(福)七つの鐘、(福)寿陽会、

(福)市原福祉会、(福)八千代美香会、(福)潮騒ホーム、(福)のびのび福祉会、(福)清風会、(福)勾玉会、(福)旭福祉会、(福)大熊福寿会、(福)松濤会、(福)晴山苑、(福)社会福祉援護会、(福)秀峰会、(福)清和会、(福)健祥会、(福)苗場福祉会、(福)初穂会、(福)白十字会、(福)伊那福祉協会、(福)桐仁会長譜花園、(福)ミッドナイトミッション、デイサービスセンターベストケア中村、老人保健施設梅花園、グループホームあすか東川口、(医)東明会、(福)NPO 福井福祉医療開発研究所

■複合施設団体

(福)太陽会、(福)愛光、(福)富岳会、(福)千葉ベタニアホーム、(福)賛育会
(福)山梨県社会福祉事業団、(福)江東区社会福祉協議会、八千代市八千代台地域包括センター、(医)公慈会

■児童福祉施設

(福)曙会弥生保育園、(福)龍澤園慈光保育園、(福)中山曙保育園、(福)長須賀保育園、さわらび福祉会野菊野保育園、(福)まん丸保育園、(福)江東園江戸川保育園、(福)テーオーシー保育園、(福)丸山保育園、(福)マハヤナ学園、(福)ロザリオ聖母会、(福)天佑会、(福)砂原母の会、(福)曙会、(福)睦会、(福)大成会不二学園、(福)一粒会野の花の家、(福)房総双葉学園、母子生活支援施設浮間ハイマー、母子生活支援施設ベタニアホーム、暁星学園、あかしあ学園、市川さくらんぼ教室

企業分野

■福祉・医療関係企業

(株)ニチイ学館、アースサポート(株)、(株)ベネッセスタイルケア、(株)センチュリーシティ、(株)コムスン、フランスベッドメディカルサービス(株)、(株)メデカジャパン、メディカル・ケア・プランニング(株)、(株)ヘルシーサービス、東京海上日動サミュエル(株)、アースサポート(株)、(株)光が丘ヘルスケア、(株)ライフコミュニケーション、(株)ケアサービス、日本ロングライフ(株)、日本シルバーサービス(株)、(株)日本デイケアセンター、(株)生活科学運営、(株)やさしい手、(株)三明、(株)HCM、ハッピーライフ菜の花館、(有)松風、(有)そら、(株)日本保育サービス、(株)モード・プランニング・ジャパン、(株)アンジェリカ、(有)翼つばさ保育園、こばと治療教育センター、(有)アイムカンパニー、(株)メディカルサービス、セントスタッフ(株)、(株)栗原医療器械店、(株)ウィズ、(株)イノベーションオブメディカルサービス、(有)ウェルフェア、(有)待山商事、デンタルサポート(株)、医療システムズ(株)、(株)ヤマシタコーポレーション、(株)エムビーシーサービス、(株)リエイ

■建設・不動産・製造・電力・運輸

(株)木下工務店、スウェーデンハウス(株)、積水ハウス(株)、タマホーム(株)、大和ハウス工業(株)、東日本ハウス(株)、(株)トミオ、(株)夢ハウジング、東急リバブル(株)、積和不動産(株)、ホンダ開発(株)、(株)興大、(株)グローバルス、(株)ジェイ・エス・ビー、ちばりハウス(株)、(株)レオパレス21、(株)ミニミニ、(株)エイブル、タイセイ・ハウジー(株)、セボン(株)、(財)日本不動産研究所、(株)プレステージプランニング、(株)東京鋳兼、朋和産業(株)、KOA(株)、西川産業(株)、(株)

出光プランテック千葉、味の素パッケージング(株)、金大電子産業(株)、日本鐵板(株)、佐藤金属(株)、アルケア(株)、コスモ工機(株)、大木製薬(株)、(株)メリーチョコレートカムパニー、(株)ヨックモック、ケンコーマヨネーズ(株)、(株)つきじちとせ、JR 東日本旅客鉄道(株)、東海海運(株)

■金融・保険

(株)千葉銀行、(株)千葉興業銀行、(株)東京都民銀行、(株)三菱東京 UFJ 銀行、(株)山梨中央銀行、農林中央金庫、東京東信用金庫、茨城県信用組合、日本生命保険(相)、住友生命保険(相)、明治安田生命保険(相)、日本興亜損害保険、SMBC センターサービス(株)、(株)ライフ、イオンクレジットサービス(株)、アコム(株)、日本交易(株)、岡藤商事(株)

■卸・小売

JFE 商事鋼管管財(株)、音頭金属(株)、スズフジスケールサービス、大丸興業(株)、イワタボルト(株)、(株)ヤマデン、(株)千葉測器、(株)テラオカ、西野商事(株)、尾家産業(株)、(株)アイスコ、(株)東関東小泉、(株)パル、(株)東京エコール、千葉日産自動車(株)、千葉スバル自動車(株)、日産プリンス千葉(株)、(株)日産サテリオ千葉、トヨタ U グループ、トステムビバ(株)、(株)ケーヨー、ロイヤルホームセンター(株)、大創産業(株)、(株)キャンドウ、(株)上昇、(株)伊勢丹、ユニー(株)、(株)大塚家具、イオン(株)、(株)ライフコーポレーション、(株)マイカル、(株)ベイシア、(株)コモディイイダ、(株)諏訪商店、グラントマト(株)、(株)ランドロームジャパン、(株)セブンイレブンジャパン、(株)コクミン、(株)ヨドバシカメラ、ギガスケーズデンキ(株)、(株)トレードワークス、(株)ラディクス、(株)京葉堂、(有)まるやま京彩、(株)アントステラ、リーフス(株)、(株)土井志ば漬本舗、青山商事(株)、(株)コナカ、(株)ユニクロ、(株)ファイブフォックス、(株)レリアン、(株)アニエスベーサンライズ、(株)ジョイックスコーポレーション、(株)アバハウスインターナショナル、(株)ワールドストアパートナーズ、エディー・パウアー・ジャパン(株)、(株)クラヴィス、(株)クロスカンパニー、(株)シュガー・マトリックス、(株)カーテン・じゅうたん王国、(株)三貴、(株)メガネスーパー、(株)オグラ眼鏡、(株)イービーエム、(株)ラッシュェジャパン、(株)丸八真綿、(株)二木ゴルフ

■マスコミ・サービス・その他

(株)JTB、クラブツーリズム(株)、ワールドエンタープライズ(株)、(株)ミリアルリゾートホテルズ、(株)ホンダコムテック、(株)ミカ/ファンクション、(株)ファインドスター、パナソニックSSマーケティング(株)、(株)西武通信社、(株)プライムデータマーケティング、KDDI(株)、ソフトバンクモバイル(株)、(株)ジュピターテレコム、オリオン交易(株)、(株)ソフトハウス、(株)アルファシステム、シャイニングシステム、ソフトウェア興業(株)、(株)ユニケソフトウェアリサーチ、(株)ビジネス情報テクニカルシステムズ、東京コンピューターサービス(株)、ノックスデータ(株)、(株)マイスター、(株)アイテック、(株)インターコム、(株)キーワードジャパン、(株)テクリード、(株)NCメディア、(株)タカノスマイル、ユーザックシステム(株)、ネットワークサポート(株)、(株)メリッツ、(株)メディアプラス、(株)NID、(株)エリート、(株)エクサ、(株)KSK、(株)電子工学センター、(株)デジタルヒュージテクノロジー、(株)アイ・ティ・フロンティア、(株)エムエーシステム、(株)毎日コミュニケーションズ、テンプスタッフ(株)、アデコ(株)、

ハーフタイム(株)、マンパワー・ジャパン(株)、(株)フルキャスト、三幸興業(株)、(株)オーピーエヌ、(株)ソルパック、(株)オール5、(株)ファニーワーク、H S L(株)、井手塾、(株)日本ライセンスバンク、(株)コナミスポーツ&ライフ、(株)ラウンドワン、(株)サマディ、(株)ダイナム、(株)メノガイア、(株)マルハン、ピーアークホールディングス(株)、(株)金馬社、(株)エヌエス商事エルセーヌ、(株)リバーズ東京、六本木天然温泉 zaboo、(株)ボックスグループ、(株)四五コーポレーション、(株)スタジオアリス、レイオンコンサルティング(株)、(株)ノーザンライツ、東陶メンテナンス(株)、(株)白石メンテナンス、(株)ビッグダイブ、コミー(株)、(株)カーアシスト、大新東(株)、日本保険損害査定(株) (J A C O)、メッセ(株)、(株)シミズビルライフケア、アポロ管財(株)、(株)博全社、(株)マンボー、(株)ビジネスサポートセンター、(株)ユニティー、(株)銀座ルノール、(株)華屋与兵衛、(株)大戸屋、(株)デニーズジャパン、(株)サッポロライオン、(株)スマイルズ、(株)馬車道、(株)利八、(株)モンテローザ、(株)大庄、テンアライド(株)、JELLYFISH(株)、(株)プラザ

団体・組合・教育機関等

コープさいたま/東京、J A 常総ひかり、少年自然の家 (千葉)

3 研究活動

・オープン・リサーチ・センターについて

「虐待現象の総合的研究」

大学院総合福祉研究科は、平成 14 年度に文部科学省の私立大学学術高度化推進事業「オープン・リサーチ・センター事業」の助成を受けて淑徳大学オープン・リサーチ・センターを発足させ、心理学専攻、社会学専攻、そして社会福祉学専攻の三専攻の協働により、「虐待現象の総合的研究」という 5 ヶ年間にわたる研究プロジェクトに取り組んだ。

この研究プロジェクトでは、児童虐待、高齢者虐待、ドメスティック・バイオレンス (以下DVとする)、さらには医療、看護、福祉等の分野における専門職による虐待という、今日の日本社会における虐待現象全般を研究対象とし、それらの虐待現象の実態ならびに発生要因や発生メカニズムを考察し、合わせて社会の人びとの暴力観や虐待観を研究することをおして、今日の日本社会にみられる人間関係の病理と、社会や集団の病理状況を明らかにし、もって実現可能で効果的な社会福祉的対応を展望することを目的とした。

本研究プロジェクトの意義は、第一に、これまでの多くの研究と異なり、心理学と社会学の両面での研究成果を踏まえた社会福祉学的対応の探求を志向したことにより、個別の学問領域にとらわれない総合的研究を可能にしたこと、その結果として第二に、ミクロレベルの個人心理や人間関係の研究とメゾレベルの地域や家族・職場・学校等の集団研究、それにマクロレベルの社会構造や社会変動の研究の三者間の結合を可能にしたこと、第三に、虐待を単なる行為事実としてのみ捉えるのではなく、社会的諸条件が複雑に絡んで顕在化したひとつの現象として捉えることによって、より全体的な虐待像の把握を可能としたことにある。

以上の目的および意義に照らし、研究の実施体制として個別虐待現象ごとに複数の学問領域の研究者からなる研究チームを組織し、①虐待者、被虐待者の臨床研究、②虐待現象とその要因に関する実態研究、③人びとの虐待観の研究、を具体的内容とする研究に取り組んだ。研究方法としては、まず文献研究とケーススタディによって虐待現象に関する仮説的知見と仮説的モデルを導き出し、それらを定量的に検証するために、予備調査を行ったうえで、一般市民を対象とした大規模統計調査を実施するという方法を段階的に採用し、上記の研究目的の達成をめざした。

本プロジェクトは、上記の目的とは別に、「研究者養成型」プロジェクトとして、大学院博士前期および後期課程の在籍者もしくは修了者を研究に参加させてその指導を行うとともに、学部科目にプロジェクト対応の特別クラスを設置し、心理臨床および社会調査の基礎的素養を有する人材の育成を図ることも目的とした。後者についていえば、心理学科の「心理臨床実習Ⅰ」に子ども虐待研究のクラスを設け、虐待の現状とブリーフセラピーによる虐待事例へのアプローチについて文献研究ならびにビデオ学習を行い、また社会学科の「フィールドワークⅠ」「同Ⅱ」に高齢者虐待、DV、子ども虐待研究のクラスを設け、それぞれの虐待現象の要因と背景について考察するための統計調査を企画・設計・実施し、解析結果を調査報告書としてまとめた。

また本プロジェクトは、「研究成果等公開型」プロジェクトとして研究成果を広く一般に公表し、社会に還元することも目的の一つとしたため、公開講座／公開シンポジウムを計7回実施した。

調査については、郵送法により、千葉県内在住の20歳以上の男女（層化3段ウエイト付き抽出法により抽出された計3,163名）を対象に平成17年3月末～4月末の間に実施された。回収数は1,239、うち有効回答数は1,181であり、全体の37.3%であった。

本調査では、虐待経験として、子どもへの虐待、介護している高齢者への虐待、DVそれぞれの加害経験だけではなく、子ども期における親からの被虐待経験、父親－母親間のDV見聞経験、現在のDV被害経験も合わせて質問している。したがって、「通時的」分析をとおして虐待の世代間連鎖を、「共時的」分析をとおして虐待現象の複合性と虐待の加害－被害の重層性を分析しうる設計となっており、以上をとおして児童虐待、高齢者虐待、DVの相互的連関を解明することを可能としているところに本調査の大きな特徴がある。

なお、「専門職による虐待」に関しては、一般市民を対象とした調査においては該当サンプルを確保することは困難であるため、別途、本研究プロジェクトの公開シンポジウム「専門職が生み出す虐待」（平成17年9月23日実施）に参加した看護師50名、および千葉県看護協会研修会（同11月16日、29日、および12月4日実施分）に参加した看護師262名の計312名を対象に集合法による統計調査を実施した。

こうした研究の成果のとりまとめを、児童虐待、高齢者虐待、DV、医療、看護、福祉等の分野における専門職による虐待の各研究チームで行い、全体的な研究報告書として発行するための準備を行った。

・科学研究費補助金等の受給状況

1. 平成18年度日本学術振興会科学研究費補助金

総合福祉学部

(単位千円)

研究種目	研究者	区分	課題内容	18年	19年
1. 基盤研究C	金沢 創	新規	錯視図形を用いた乳児の視覚発達に関する実験心理学的研究	1,500	1,100
2. 若手研究B	神 信人	継続	リーダーへの権力委託による社会的ジレンマ解決の実証的研究	1,100	0

・学位の取得状況（平成16～18年度）

2004(平成16)年度

氏名	取得日	授与大学	学位名	学位論文題目
木村 登紀子 社会学部教授	2005年 3月10日	東北大学	博士(文学)	医療の現場における患者と家族の心理的研究

2005(平成17)年度

該当者なし

2006(平成18)年度

山下 幸子 総合福祉学部講師	2007年3月	大阪府立大学	博士(社会福祉学)	障害者運動にみる障害者と介助者との関係性
-------------------	---------	--------	-----------	----------------------

・学内で開催された学会等

- 平成16年度
1. 司法福祉学会（世話人 小木曾助教授）
 2. 淑徳大学社会福祉学会
 3. ビハーラ学会（池袋サテライト・キャンパス）
- 平成17年度
1. 淑徳大学社会福祉学会
- 平成18年度
1. 淑徳大学社会福祉学会

4 社会貢献活動

・ニュートライアングルプロジェクト計画

平成19年4月より新生淑徳大学がスタートを切るために、建学の精神である「共生」と、それに基づく教育理念である「実学教育」を現在の本学の教育のなかで具現化することが検討された。そうしたなかで、学生を「実践力を身につけた社会人」として養成するための基礎力の開発、それに則した教育力をもつ学部教育の改革が急務となった。また、今日の大学の社会的使命として従来の研究・教育機能に加えて、大学の地域貢献・社会貢献の機能の活性化が求められている。

上記のような認識の下に、本学のこれまでの社会福祉教育の伝統を活かし、総合福祉学部と平成19年4月より開設される「看護学部」、姉妹法人の施設である「淑徳共生苑」との三者の連携によるニュートライアングルプロジェクトを計画した。このプロジェクトのキーワードは、「連携」「開発」「貢献」の三つの柱とその統合化である。具体的には、「連携」とは先の三部門の教育・研究と地域貢献に向けた連携である。「開発」とは、学生の教育への基本的視点として、地域や社会で他者と共に生きることのできる実学に基づく人間開発である。そして、「貢献」とは、そうした大学の「連携機能」と「開発機能」を社会化していく社会的実践とその活動である。

その計画においては、①保健・福祉プログラムを中心とした総合的な地域支援プログラム（地域支援）②大学の教育力（学生への実学的教育支援力）の開発・強化プログラム（教育）③総合福祉学部・看護学部・淑徳共生苑の共同研究プログラム（研究）を検討し、次年度からは地域支援プログラムから実行していく予定である。

・学びの支援フォーラム 2006 への参加

東京国際フォーラムを会場として8月19～20日の2日間行われた「学びの支援フォーラム」に初めて本学部が参加した。NPO法人学びの支援コンソーシアムによって主催されているもので、「大学別学びの支援ブース」に＜総合福祉の教室＞というブースを開設し、学生が中心となって訪れる子どもたちが点字、パネルシアター、手話などを体験的に学べるような試みとして行った。

・公開講座

本学部独自の公開講座は、研究公開委員会の所掌のもと、千葉市教育委員会の助成を得て千葉市民を対象として、原則、秋季に共通テーマのもと全5回の講座がなされている。公開講座には、本学部における研究・教育活動の成果を社会および地域に還元するという意味もあり、講師は本学教員を中心に協力を仰いで実施している。また、講座の充実を図るため外部講師も招聘している。

平成18年度の公開講座の共通テーマは「健康に暮らす」とし、自分自身の生き方を安定させるための気づきを図り、他の人と支え合うあり方を考えることをねらいとした。淑徳大学教授松田博雄の講演を皮切りに、子どもから高齢者まで幅広い年代の方々が健康に暮らしていくためのヒントについて、本学部教員ほかが講演した。受講者数は延べ348名であった。

第1回 10月14日(土)「子どもの健康・安全」 松田博雄(淑徳大学教授)

第2回 10月21日(土)「医療サービスと利用者」 時井 聡(淑徳大学教授)

第3回 10月28日(土)「こころに病をもつ人と地域でともに暮らす」

鈴木友里子(国立精神・神経センター精神保健研究所)

第4回 11月11日(土)「中高年に効く運動の質と量ースポーツ競技者は何故短命かー」

土井浩信(淑徳大学教授)

第5回 11月18日(土)「私らしく生きるための老い支度」

久代和加子（淑徳大学看護学部設置準備室）

実施会場：淑徳大学 千葉キャンパス 12 号館 101 教室

・保育セミナーの開催

本学では、現役の保育所保育士および幼稚園教員、そしてその職業を目指している学生を対象に、毎年、保育セミナーを開催している。平成 18 年度のセミナー事業の内容は次の通りである。

- 時 平成 18 年 9 月 2 日(土)
- 会場 淑徳大学千葉キャンパス 5 号館 101 教室
- 参加者 57 人 卒業生、在学生、保育所や施設の現役保育士、その他、本学教員
- 講演Ⅰテーマ：「子どもの心の健やかな成長を願って」：本学教授 田中みどり
- 講演Ⅱテーマ：「子ども家庭支援・ネットワークと私の役割」：三鷹市北野ハピネスセンター園長 佐伯裕子

・社会福祉研究所：発達臨床研究センター

1. 障害児に対する地域支援活動

昭和 40 年の開学以来、地域支援としての発達障害幼児の療育活動を、感覚と運動の高次化アプローチによって展開してきた。ねたきりの最重度の障害児から、アスペルガー、LD、ADHD といった高機能障害の子どもたちまで、障害の種別を問わず発達支援が行われている。これまでの受け入れ児童数は 700 名を超えている。スタッフは臨床心理士ならびに臨床発達心理士によって構成されている。

療育方法は、緻密な発達評価のもとで個々の支援プログラムを開発することに重点がおかれている。実際には、2,000 点を超す独自の認知・言語教材を用いた個別指導と、音楽・運動・コミュニケーションにねらいを置いた集団療法が実施されている。平成 18 年度は千葉市内を中心に、24 名の発達障害幼児に対して、週二回の継続的な発達支援が行われた。

2. 学部ならびに院生の臨床実習生の受け入れ

社会福祉学科、心理学科の 3 年・4 年次学生 39 名を対象に、障害児初級・上級臨床実習が行われた。大学院心理学専攻修士課程、社会福祉専攻博士後期課程の院生 8 名を対象に、発達臨床心理実習が行われた。いずれの実習も、毎週一定時間特定の子どもの担当して直接発達支援にかかわり、並行してケースカンファレンスやスーパービジョンを受けるというシステムである。

3. 発達臨床研修セミナーの開催

8 月 4 日と 5 日の二日間にわたり、第 31 回発達臨床研修セミナーが「発達支援の方法を考える」というテーマで開催された。全国から 548 名の教育系、福祉系職員が参加した。セミナーの内容は以下の通りである。

- 講演 1 川真田喜代子・佐々木陽子：スヌーズレンを取り入れた自立活動
- 講演 2 土野研治：声・身体・コミュニケーション—障害児の音楽療法—
- 講演 3 宇佐川 浩：認知発達臨床の基礎を考える

事例研究 1 池畑美恵子：知覚水準にある自閉症児が示す行動の発達の意味と支援

事例研究 2 中島 彩：音楽療法における自閉症幼児との関係性の構築

事例研究 3 島山和也・山内 功：知的障害を伴う自閉症児の指導のポイントの検討

4. 研究紀要の発刊

発達臨床研究 24 巻が刊行され、論文 5 編、その他 1 編が掲載された。

・社会福祉研究所：総合福祉研究室

1. 調査研究成果の報告

平成 16 年度から開始された共同研究「社会福祉サービスの質の向上と利用者の権利擁護にかかわる実践的研究」として「社会福祉施設における苦情処理の対応に関する全国調査」を実施した。その調査結果を報告書としてまとめ、総合福祉研究 11 号(社会福祉研究所 2007 年 3 月刊行)に掲載した。

2. 社会福祉研究所セミナーの開催

第 10 回社会福祉研究所セミナー「心はお元気ですか? ―日本人の知恵に学ぶ―」を 7 月 8 日(土)に千葉市文化センターで開催した。講師:カール・B・ベッカー京都大学教授
参加者は 215 名であった。

・総合福祉研究科 附属心理臨床センター

事業内容

平成 15 年 4 月に「淑徳大学大学院社会学研究科(現・総合福祉研究科)附属心理臨床センター」が、大学院の臨床心理士養成校として設置が義務づけられていることにより開設した。平成 17 年度からは、従来の「相談事業」に加えて、新たに「支援事業」を立ち上げた。

1. 相談事業

心理的な援助を必要としている人を対象に臨床心理相談・治療を行うとともに、臨床心理士を目指す学生の臨床実習の場でもある。平成 18 年度相談事業の実績は、個別相談、延べ 271 件、家族相談、延べ 19 件、心理査定、延べ 84 件、相談コンサルテーション、延べ 7 件の合計 381 件である。件数は、前年度比 1.29 倍の増加を示した。開所 4 年目を迎え、センターの存在の認知度が高まってきている。

また、平成 17 年度から新たに立ち上げた「支援事業」は、地域に開かれたセンターとしての地域サービスを目的に、センター運営委員となっている専任教員の専門性を活かした講座を企画し、臨床心理士を目指す学生が実習として準備・進行を行っている。

2. 子育て支援事業

2 年目である平成 18 年度は、子育て中の保護者を対象に、参加者との交流がはかれるような形態に改善して、年間 3 回開催した。第 1 回・2 回は講演会と相互交流型の「ワークショップ」を組み合わせた講座とし、また、第 3 回は共催の慈光保育園「このはなクラブ」(大巖寺文化苑子育て支援サークル)に保育と発達心理学が専門の本学専任教員を講師として派遣し「子育てについての Q&A」と題した講座を実施した。6 月 17 日に開催された

第1回には31名が、12月2日に開催された第2回には34名が、2月22日に開催された第3回には18名（就学前乳・幼児20名）が参加した。

3. 地域支援事業

千葉キャンパスに隣接した大巖寺・白旗等近隣地区住民を対象として、6月10日に開催した。平成18年度は、淑徳大学学長であり大巖寺文化苑苑主である長谷川匡俊大巖寺住職を講師に「淑徳大学と大巖寺文化苑：心理臨床センターへの期待」と題しての講演会、見学会、交流会で構成し、44名が参加した。

4. 地域コンサルテーション事業：教育支援講座

平成18年度も千葉市教育委員会の後援を得て、7月27日にセンター運営委員の千葉浩彦教授と小川恵准教授を講師に開催した。教育現場で対策に苦慮しているという「軽度発達障害」をテーマとした講演会と、ワークショップ「ADHD児のソーシャルスキルトレーニング」、そして見学会で構成し、40名が参加した。

5. 高齢者支援事業

平成18年度は、教育を目的とした学内での「高齢者支援講座」に加えて、福祉の現場からのニーズに応えるために「公開講座」を開催した。公開講座は、日本の「回想法」の第一人者である野村豊子氏を講師に、高齢者施設等で働く方々を対象とした講演会を開催し、27名が参加した。

6. その他の支援事業

臨床心理士養成校として貢献するための支援事業として、本学修了生の資格取得を支援すると同時に他大学の学生にも支援することを目的に「臨床心理士資格審査受験対策講座」と「ロールシャッハ講座」を公開講座として開催した。「臨床心理士資格審査受験対策講座」は基礎編・応用編あわせて40名、「ロールシャッハ講座（エクスナー法初級）」は第1回・2回あわせて17名が受講した。

5 学生の活動

・課外活動の成績(学生大会等上位のもの)

〔団体〕

1. バスケットボール部

- ・千葉リーグ(女子) (千葉学園主催 6・11月 千葉大学体育館他) Bリーグ優勝
- ・関東リーグ(男子) (関東大学バスケット連盟主催 9月 首都大学体育館他) 下部2位

2. 排球部

- ・関東大学男子バレーボール春季リーグ戦(関東大学バレーボール連盟主催 4～5月 淑徳大学アリーナ) 8位
- ・関東大学男子バレーボール秋季リーグ戦(関東大学バレーボール連盟主催 9～10月 能力開発技術大学体育館) 8位
- ・関東大学女子バレーボール春季リーグ戦(関東大学バレーボール連盟主催 4～5月

東邦大学体育館) 4位

- ・ 関東大学女子バレーボール秋季リーグ戦(関東大学バレーボール連盟主催 9~10月
敬愛大学体育館) 6位

〔個人〕

1. 車椅子バスケットボール

- ・ 内閣総理大臣杯争奪日本車椅子バスケットボール選手権大会
社会福祉学科 野澤 拓哉が所属する千葉ホークス優勝
- ・ 世界車椅子バスケットボール選手権大会(ゴールドカップ) 世界7位
社会福祉学科 野澤 拓哉が日本チームのメンバーとして参加

2. 弓道部

- ・ 関東学生弓道選手権春季トーナメント大会(関東学生弓道連盟主催 4月 東京武道館)
谷口由佳 準優勝
- ・ 千葉県学生弓道選手権大会(千葉県弓道連盟主催 5月 千葉県総合運動場弓道場)
安武朋美 準優勝

・ 平成18年度「大乘淑徳学園スポーツ・文化研究奨励賞」受賞者

平成19年賀詞交歓会に於いて 平成19年1月5日

賞区分 奨励賞 学生・団体名「パネルシアター でんでん虫」

・ 平成18年度 淑徳大学スポーツ文化奨励賞 受賞一覧

授与式 : 3月8日(木) 13:00~ 学生厚生委員会室

団体・名称	実績	奨励金
(認定団体)		
・ 軟式庭球部	男子関東学生ソフトテニス秋季・春季ともに12部で全勝優勝、 11部昇格 千葉県学生でも春季2部優勝 女子関東学生ソフトテニス春季に9部へ昇格	10万円
・ 羽球部	男子千葉県学生バトミントン秋季リーグ戦D組優勝	10万円
(準認定団体)		
・ ドルフィンズ	昨年度、障害児・者の音楽療法、知的障害者との交流、 特別養護老人ホーム活動等119回のボランティア活動を実施	10万円
・ ポケット	過去20年間に亘り、月2回介護老人保健施設・特別養護老人 ホームで活動	10万円
(認定団体)		
・ 硬式野球部	関岡 亮 社会2年	5万円
・ 軟式庭球部	勝又大典 福祉3年・新井林太郎 福祉2年	5万円
・ 羽球部	仲田早香 社会3年・内山佳祐 心理3年	5万円

- | | | | | | |
|------------|-------|------|-------|------|-----|
| ・ラクロス部 | 金子亜香里 | 福祉3年 | ・新井芽衣 | 福祉4年 | 5万円 |
| ・バスケットボール部 | 妹尾俊彦 | 福祉3年 | ・岡田将平 | 福祉2年 | 5万円 |

6 その他

・平成18年度の施設・設備の整備事業

1号館4階部分を図書館として利用しており、その耐震補強のために工事を実施した。
また、5号館教室の空調設備が老朽化したので、リニューアル工事を行った。